

特別例会「キューポラのある街」

加古川出身の撮影監督 姫田真佐久 生誕 100 年記念上映会

加古川シネマクラブらしい上映会を考えていたときに、今年の 11 月 19 日が、戦後を代表する撮影監督(映画カメラマン)で、加古川出身の**姫田真佐久**さんが生まれて 99 年目つまり 100 周年の始まりであることがわかり、何とか姫田撮影監督を顕彰するイベントができないうか、ということから話が始まり、ちょうど誕生日の日に特別例会をすることとなりました。

作品は、今年没後 30 年となる相生市出身の**浦山桐郎**監督が**吉永小百合**を主演に撮りおろした「**キューポラのある街**」です。

皆さん、お誘い合わせの上、来場くださいますようご案内いたします。

例会のお知らせ

- 名称／第 81 回例会『キューポラのある街』
- 日時／11 月 19 日(木) ①PM 2:00—、②PM 4:20—、③ PM 6:30—(記念講演会は、PM 3:45 から 30 分間)
- 場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

- 主催／加古川シネマクラブ
- 後援／加古川市教育委員会
- その他／この例会は、特別例会として、一般の人でも入場できます。

入場料金 一般／1,100 円、会員同伴者／1,000 円

【例会作品データ】

- タイトル／キューポラのある街
- 監督／浦山桐郎
- 原作／早船ちよ「キューポラのある街」
- 脚本／今村昌平、浦山桐郎
- 撮影／姫田真佐久
- 出演／東野英治郎、杉山徳子、吉永小百合、市川好太郎、鈴木光子、森坂秀樹、浜村純、菅井きん、浜田光夫
- データ／1962 年、日本、99 分、ドラマ／ヒューマン
- 解説／早船ちよの原作を「豚と軍艦」の今村昌平と、その門下にあった**浦山桐郎**が共同で脚色、監督した社会ドラマ。撮影は**姫田真佐久**。

鋳物の町として有名な埼玉県川口市。銑鉄溶解炉キューポラやこしきが林立するこの町は、昔から鉄と火と汗に汚れた鋳物職人の町である。ジュン(吉永小百

合)の父石黒辰五郎(東野英治郎)も、昔怪我をした足をひきずりながらも、職人気質一途にこしきを守ってきた鋳物職人である。ある日、働いていた工場が大工場に買収されたことからクビになってしまう。困窮に苦しむ一家だったが、ジュンはそんな境遇の中でも、自分の進路について一生懸命考え、昼間働きながら夜間高校に行くようになった。吉永小百合主演で、高度経済成長期の庶民の暮らしを温かなまなざしで描いた青春ドラマ。

若き日の**吉永小百合**をキャスティングした相生市出身で今年没後 30 年にあたる故**浦山桐郎**監督の作品を、今年生誕 100 年である加古川市出身のカメラマン故**姫田真佐久**が支えた作品。

記念講演会のお知らせ

- 名称／特別例会記念講演会
- 講師／伊良子序(いらこはじめ)さん(元神戸 100 年映画祭総合プロデューサー)
- 日時／11 月 19 日(木) PM 3:45—PM 4:15
- 場所／加古川総合文化センター大会議室
- 受付／当日の特別例会(上映会)入場者は自由に聴講できます。

「全国映連・上越フェス」参加報告

「上越フェスティバル 2015(全国映連・学習交流会)に参加して来ました！」今年のフェスティバルは 10 月 10 日・11 日、新潟県上越市で開催されました。加古川シネマクラブからは 2 名が、お隣の明石シネマクラブからも 2 名が参加しました(総勢 60 数名)。会場となったのが「高田世界館」という映画館です。この高田世界館は、築 104 年、明治の洋館建築としては最古の温かみ溢れる、今なお現役の映画館なのです。9 月に NHK で高田世界館を紹介する放送があったので、ご覧になった方はわかると思うのですが、円形のフォルムで、小さな 2 階席(41 席。一階は 140 席)があり、歴史を感



じさせる映写室、上品な天井張り。現在は、椅子やステージを修繕、改善されながら「街なか映画再生委員会」の方々が高田世界館を守っておられます。そして、地元事務局である「上越映画鑑賞会」の例会会場でもあります。私は、数年前にある冊子でこの高田世界館を知り、いつか行ってみたいと思っていたので、いち早くフェスティバル参加を決めていました。(映画「シグナル〜月曜日のルカ」(2012年)ではロケ場所であり、高田世界館が楽しめます。)もう一つ楽しみにしていたのが、映画「ふみ子の海」のロケ地である警女の町、高田を巡ることでした。地元事務局の方に案内していただき、「ふみ子」の世界に浸ることができました。最後に、夜の交流会で頂いた新潟のお酒について。本当に飲みやすく、美味しく、飲み放題のテーブルに置かれたお酒の数々、終盤には全てカラとなっていました。続いて二次会へ(20数名)。♪佐渡おけさ♪の合唱で始まり、♪若者たちよ♪でお開きとなりましたが、こちらの店では、お勧めされた地元赤ワインを飲み干してしまいました。初めての新潟。電車にゆられて片道約5時間。遠かったけれど、上越の方々はとても温かく、近くに感じました。(せん)

「街なか映画館で、映画を選び、映す、観る、そして語る」をテーマに、築104年・日本最古級の映画館である高田世界館に集い、自主上映活動の持続と映画館再生の話をついたり、映画のロケが行われた高田の街並みを見学したりしながら、全国の映画上映団体の関係者が交流しました。

金沢から上越までは、北陸新幹線を使っての、楽しい道中であったそうです。

来年の全国映連の事業は、7月の映画大学は福岡県北九州市で、秋のフェスの開催場所は未定です。興味のある方は、運営委員にお訪ねください。



会員を増やしましょう(編集後記)

例会のたびに感じるのは、折角の映画鑑賞会であるのに鑑賞者が少ないことです。明石シネマクラブとの交流事業で約10人が増えたのですが、会員が約20人減っています。

また、会員の減少に伴う会費収入の減少は、会の運営に大きな影響があります。細かな計算はしていませんが、今のところ1回の例会開催経費に近い金額が赤字になっているはずです。

今回の特別例会で、会員以外の有料の観覧者が多け

れば、赤字の解消につながるのですが・・・。

毎度、申しあげているとおり、会員数を200人近くになるよう、会員の皆さんには、引き続き映画好きの人に入会を呼びかけていただきますようお願いいたします。(宮)

前回例会の報告

9月15日の例会は、第二次世界大戦下、日本軍の物資輸送のためのタイとビルマを結ぶ泰緬鉄道の建設に、捕虜として作業に狩り出された英国人将校エリックが綴った戦争体験と、その後の驚くべき人生を描いた『**レイルウェイ 運命の旅路**』を鑑賞しました。

コリン・ファース、ニコール・キッドマン、真田広之らの共演もおもしろかった。

参加者のほとんどから、全体に「良い映画だった」という感想であった。

参加会員98人、別に明石シネマクラブから8人参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/『妻への家路』(2014年、中国、110分)

■監督/チャン・イーモウ

■出演/コン・リー、チェン・ダオミン、チャン・ホエウェン

■日時/12月15日(火)

①PM2:00-、②PM4:30-

③PM7:00-

■場所/アスパシア明石9階

子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 150人(9月15日現在)

